Welcome to Library

ようこそ 図書館へ

中央図書館 ☎23-4946（よくよむ）
赤羽根図書館 ☎45-3426
渥美図書館 ☎33-1114
図書館HP

ホットニュース Hot News

◎移動図書館を知っていますか?

田原市図書館には、中央図書館、渥美図書館、赤羽根図書館の3館の他に、「いずみ号」と「やしの実号」という2台の移動図書館があります。どちらも、市内の小学校を月に1回ずつ巡回し、本の貸し出しを行っています。

▲「いずみ号」での本の貸し出し

小学校に移動図書館が到着すると、子どもたちが自分の図書館カードを持って読みたい本を借りに来たり、クラスのみんなで楽しむための学級文庫を選びに来たり、とてもにぎやかです。わずか1時間足らずの間に、なんと約1000冊の貸し出しを行う学校もあります！

一般の方には、なじみがないかもしれませんが、移動図書館の本は中央図書館などでも借りることができます（※図書検索で、配架区分に【移動児童】とあるもの）。ぜひご利用ください。

また、時々保護者の方からご質問をいただくのですが、返し忘れた移動図書館の本も、市内3館の他、返却ポストでも返せますので、どうぞご安心を。

オススメの本

ちいかわナゾトキ
ナガノ/著　講談社

可愛さとダークな世界観を併せ持つ「なんか小さくてかわいいやつ」。そんなちいかわたちと一緒に謎解きを楽しもう！

ロゼット切り紙
Killigraph／著　誠文堂新光社

放射状の幾何学模様が美しい葉っぱの切り紙です。切って、重ねて、色付けして、お部屋の中をいろいろな季節に彩って楽しんでみませんか。

History Inquiry Club

歴史探訪クラブ 其の231

文化財課（博物館）☎22-1720
吉胡貝塚資料館 ☎22-8060
渥美郷土資料館 ☎33-1127
博物館HP　博物館インスタグラム

田原藩の洋式帆船（はんせん）順応丸、日本の海を駆ける

田原藩は幕末（江戸時代末期）の一時期、西洋式の帆船を保有していました。しかも、この帆船は藩が波瀬の浜で自ら建造したものでした。

建造の目的は軍備よりも、交易に利用して窮乏にあえぐ藩の財政改善に役立てたいという思いがあったようです。この時代の田原藩は地元産の海産物（ナマコやイガイ）を加工して特産品開発を試みたり、蝦夷（えぞ）地（北海道）の開発に参入しようとするなど、厳しい状況に対してなかなか挑戦的でした。

折しも1854（安政元）年11月、伊豆へ開国交渉に来ていたロシア船が、安政の大地震による津波で難破する事件がありました。ロシア人たちが帰国するために、伊豆の戸田（へた）（現在の沼津市）で、彼らの指導のもと西洋式の帆船（スクーナー船）が建造されることとなったのですが、この時、習得した技術で、幕府や長州藩は新たに自分たちの帆船を作ることとなりました。田原藩もこの流れに加わります。藩士を長州に派遣して、殿様に協力の約束を取り付け、経験のある船大工を田原藩に呼び寄せて帆船を建造したのです。その名も「順応丸」と名付けられたこの船は、1858（安政5）年から5年間に渡って、地元の特産物や田原藩の人や荷物を運び、各地の産物の収集などにも活躍しました。例えば、江戸に大豆や干鰯（ほしか）（イワシを日干しして肥料にしたもの）を輸送したときには30両、材木を運んだ時には50両の利益が出て、時の家老が安心したという記録が残っています。

この順応丸を建造する時の材木片の一部を船大工が故郷の伊勢へ持ち帰っていました。およそ90年後、それを知った田原藩の士族が在りし日の順応丸の姿とその由来を書いた材木片が、現在は田原市博物館に収蔵されています。

（学芸員 木村洋介）

▲材木片に描かれた順応丸